

第2回葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会

議事要旨

日 時：令和7年12月19日（金）午後3時～午後5時

場 所：新庄健康福祉センター 3階 会議室

出席者：北詰委員 村瀬委員 布施委員 奥田委員 下村委員 杉村委員 西川委員
東野委員 松下委員 大武委員 大植委員 坂上委員 松井委員 石田委員
溝畑委員 吉田委員 槇野委員 岡山委員 三宅委員 川本委員 駒井委員
吉田委員 堀内委員 森委員

議題

1 開会

2 会長挨拶

3 案件

- (1) 葛城市第二次総合計画及び第2期葛城市総合戦略に係る達成状況報告について
- (2) 葛城市人口ビジョン素案について
- (3) 葛城市第三次総合計画に係るアンケート調査結果について
- (4) 葛城市第三次総合計画及び第3期葛城市総合戦略構成案について
- (5) 市政フォーラム資料について
- (6) その他

4 閉会

2 会長挨拶

会長より挨拶

3 案件

(1) 葛城市第二次総合計画及び第2期葛城市総合戦略に係る達成状況報告について
事務局より資料1、資料1-1、資料1-2を用いて説明

【岡山委員から資料1-2に関して事前意見】

1点目、「高齢者や障がい者が生きがいをもって暮らせるようにする」の指標にある未達成の項目に関して、令和8年度の目標値が高すぎるのではないか。

2点目、「森林や河川等の自然環境の維持・景観形成に努める」の「間伐・植林面積」の令和8年度の目標値が高すぎるのではないか。

3点目、「基幹道路や駅前道路、地域交通ネットワークの整備を進める」の「無電柱化率」については、実績値は0で良いだろう。

4点目、「農商工業の地場産業を育成し、活性化させる」の「地域ブランド認定品数」について、令和8年度の目標値が高すぎる。1つ1つ増やしていくことが肝要である。

【事務局からの回答】

各指標の目標値については、現行計画を策定する際に検討したうえで設定したものになる。目標設定した当初の見込みが甘かったものもあると思われ、現状の実績と目標との乖離が見られている。今回策定する計画においては、目標を設定した後も中間見直し等を実施し、その時点での乖離が見られた際には、目標値の設定の再検討をするなど、定期的な見直しの実施を考えていきたいと思う。

松下委員

資料1-2の「観光業の振興によるまちの賑わい創出」の「観光ボランティア案内件数」が、令和6年度で24件となっており、私どもで認識している数値との乖離があった。事務局に確認すると「案内依頼があった際に、それに対応して案内した件数」であるとのことだった。その数値で管理していくのであれば、この指標名は「観光ボランティア申し込み案内件数」の方が良いのではないか。また、申し込みを元にした案内件数として目標を100件とするのは、達成が難しいのではないか。

観光ボランティアの方で実施している案内件数は、この数字の倍以上。色々な活動に参加して案内をしており、練供養の時には、1日に30件以上の案内を実施することもある。葛城市は観光資源がたくさんあるが、認知度としては低い。名称を変更するか、取る数字を見直すかが必要かと思う。

事務局

観光ボランティアの方で、これまでの案内件数の記録をお持ちか確認させていただきたい。

松下委員

総会の資料に記録がある。

事務局

担当課の方にご意見を共有させていただき、把握する数字の確認をさせていただく。指標名はこのままとさせていただき、申し込み件数以外の案内も含めた数字で、達成度を測り直す形で進めたい。

東野委員

指標を設定した際に、把握すると決めた数値はどの数値なのか。そこがはっきりしないと、他の指標についても、基準と実績が違ったりする可能性も出てくる。

事務局

こちらの数値については、年度ごとに各課へ照会して入力・把握している数字となる。数字の取り方や基準に関して、企画政策課（事務局）としては、すべては認識できていないが各課では把握しているので、基本的にはそういった乖離は無いと考えている。目標値の妥当性に関しても、現行計画策定の際に、担当課の方で相談・調整し、数値を出してもらっている。

会長

担当課に照会する際の数字の取り方等については、定義もしっかりと整理しておくように。

村瀬委員

達成度の評価を行うレンジが大きいのではないかと思う。この形では、達成度 50%と 99%が同じ評価基準になってしまう。もちろん、事務局としてこの形で評価すると調整して決めたのであれば、その方法を覆す考えはないが、重点的な項目については個別にみるなどの方法を取ることで、より詳細な分析を行っていく視点も必要であると思う。ご検討いただければと思う。

事務局

評価の方法については、事務局においても相談・検討した。その結果として、今回はこの形で評価を整理することとさせていただいた。その上で今回は、各指標に関して達成状況等に関する分析もさせていただいたところとなっている。

会長

一定の評価基準で整理することは問題ないと思う。しかし、問題を抱えている部分について

ては、重点的に・詳細に見ていくことも重要である。

事務局

承知した。

溝畑委員

この指標の資料に関しても、もちろん計画に関しても、「誰」に向かって示したいものなのかが、はっきりしない。市民向けのものであるとしたら、きっと多くの方が見ないのではないかと思う。

もっと具体的に「目指すまち・目指すまちの先」を示すべきであると思う。幸福度を重視するのか、外貨を獲得していくまちとなるのか、歴史を大事に誇りの持てるまちにするのか、そのあたりの方向性を示すことが重要で、その際には市の唯一無二の特色を活かして考えていくことが必要。

市として、奈良県の中で、日本の中で、世界の中でどのように光っていくのか、未来のあるべき姿を考えて、どういう都市を目指していくのかを示すこと、そして、それが住民が共感できるものであればなお良く、そこが示されればそれが指標にもなっていく。

手広く示すのではなく、「ここは強い・弱い／ここに力を入れる／伸ばしていく」を考え、選択と集中によって重点施策を示し、そこに向けて行政・民間・住民といった誰が何をやるべきなのかを示していくことが重要である。総合計画として、枝葉の部分のみではなく、まちの魅力を伸ばすための大きい経営目標を示すため、今、どんなまちを目指していくのかという考えがあれば教えて欲しい。

事務局

説明させていただいた資料は、第二次の計画で設定した指標であり、この結果を整理した上で、次期計画に向けた検討を進めていきたいと考えているところ。

市としては、「相撲コンテンツ」や「子育て支援」といった部分に力を入れて政策を進めており、そういった内容については、市民に向けても周知はしているという認識を持っている。

総合計画という計画の形・性格上、総花的な内容となってしまう部分もあると思うが、今回の策定の際には、少し考えさせてもらえたらと思う。

会長

この指標については、第二次計画で設定されたもので、これまでこの計画の進捗としても活用されてきたものであるので、これ自体を否定するものではないし、第二次の計画の進捗としては、この数値を使って評価を継続していくと良いと思う。しかし、次期計画の策定には、次の形を考えてほしいという意見であったかと思うので、事務局の方でここは検討してもらえたらと思うし、本審議会でも、市としての大事なものを考えて議論していけたらと思う。

溝畑委員

目指すべきまちの姿を考えていくためには、今ある社会課題にどう応えていくのかという考え方も重要であると思う。市として、ここを伸ばすことで、奈良県の中でこういった存在になっていくという部分を示していくことが重要。目標や目指す姿ありきで数値考えていくことが大事で、そこを示さないと、関心ある人以外は見ないと思う。審議会の委員のための計画ではない。住民と一緒にまちづくりを考えていくための考え方、そこが最初にないといけない。

観光であっても、県内の位置を踏まえた交通体系・空港からの距離も考えていくことが必要で、競争に勝てる優位性をもった都市となっていくための、経営方針が重要。

奥田委員

今日の会議の構成について教えて欲しい。1つ目の議題で時間を使っているが、重点的に検討しなければならない項目があれば、そこに注力する必要もあると思うがいかがか。

事務局

本日の項目としては、計画の方向性（資料4）に関する内容に、ご意見を頂戴したいと考えている。

会長

それでは、次の項目に進みたいと思う。

（2）葛城市人口ビジョン素案について 事務局より資料2を用いて説明

奥田委員

まず、市の目指す人口としては、シナリオ1なのかシナリオ2なのか、教えて欲しい。10年後の目標として盛り込むのはどちらになるのか。

事務局

シナリオ2を目標人口として設定したい。出生・移動の両面から改善を図り、可能な限り人口減少を無くしていきたいと考えている。

奥田委員

本市は市内間移動が最も多いというデータも記載されているが、こういったこれまでの移動の状況も加味した推計になっているということで間違いないか。

事務局

間違いない。これまでの人口の動向をふまえた推計になっている。

坂上委員

合計特殊出生率の目標が2.07というのは実現が難しい、甘い見通しなのではないかと思う

がいかがか。

事務局

おっしゃる通り、2040年で2.07の合計特殊出生率の実現を目指して、目標設定している。本市としては、可能な限り人口維持を目指していきたいと考えており、社人研が示す人口維持できる出生率の水準である2.07を目標として設定した。現状としては1.5前後となっており、他の自治体と比べると高い値とはなっているが、2.07は高い目標であると思う。しかし、人口維持を目指すものとして、ここを目標として取り組んでいきたいと思う。

会長

この数字は、極めてチャレンジングなもの。実現に向けた方策については、先ほどの重点的な政策としてぜひ考えていってほしい。

また、人口目標というのは、目指して各取組を進めていくものであるが、目標とする人口が実現できなくなったときにどうするかという視点も大事。実現できていない際に、都度都度ここからどうするかを考えるための数値としても大事なもので、そういった考えも持ちつつ、政策の推進を図っていってもらえたらと思う。

布施委員

自身の保育園にいらっしゃる聞きなれない苗字の方は、多くが御所市・五条市から転入された方。そして昨年、五条市では出生数が3桁に届かなかったとのこと。葛城市では、今まで、人口維持できてきたが、人口がどんどん減少していく未来はもうそこまで来ている。実際に自身の感覚からすると、5年後には就学前児童数は半分くらいになると考えている。南和地区の他の自治体でも、本当に大変なことになっている。本当に、葛城市でそこを食い止めていけるのか、考えておいてほしい。

また、人口増・出生増を進めていくのであれば、住む場所も確保した上で考えていく必要がある。今も、田んぼを無くして家を建てている。そこも含めて、目指す人口を考えていってほしい。

会長

机の上で数字を計算するだけでなく、市内の状況を見て、検証をした上で、今後の人口を考えていってほしい。

(3) 葛城市第三次総合計画に係るアンケート調査結果について 事務局より資料3を用いて説明

大植委員

情報発信のところについて、「道の駅葛城」が情報発信の選択肢に入っていないことに驚いた。道の駅は、多くの市民・市外の方が足を運んでいる場所であると思うので、そこで情報発信をしていけると、よく伝わっていくのではないかと思う。権利関係の部分もあるのかも

しれないが検討いただければと思う。

事務局

道の駅については、市の指定管理という形で（株）道の駅葛城に運営していただいている。観光情報センターでの情報発信も含めて、今後も活用していければと思う。

大植委員

情報もそうだが、もっと名産品等についても発信していけるといい。

事務局

名産品については、市としても弱い所であると認識しており、葛城市といえは「これ」という名産品が無いので、そこは考えていかないといけないと思っている。

駒井委員

土日・祭日の駐車場をみると、7～8割が県外ナンバーとなっており、市内市外からたくさんの方に訪問いただいている。道の駅は来年で10年になるので、次の10年に向かってさらに取り組んでいきたいと考えており、道の駅の上の方にある土地の活用も含めて、市と連携して検討を進めていきたいと思う。また、案内に関しては、資料館における展示も実施しており、様々な発信を行っている。本市はこういうところだという情報発信も大事にしていきたい。

葛城市の役場と商工会が、国の施策の選定地となり、3年間で105人の就労実績を目指して取組を進めている。実際に、現時点で73人の方に就職いただいているところ。人口増に向けて、市に住んでもらうのと同時に、市で就職してもらえると、もっと市が潤っておくだろう。そういった施策についても、今回の計画に盛り込んでいけると良い。

奥田委員

前回の会議での私の意見に対し、小学生もアンケートの対象者として盛り込んでいただき、ありがたい。この場で御礼申し上げる。

吉田委員

農業委員会の立場ではあるが、農業振興とは異なる視点で意見させていただければと思う。奈良県において農地転用の件数を把握しているのが、本市は県内でも件数が多い方に区分される。そして、それによる住宅の整備が、人口増という面で結果として出ているのだと認識している。しかし、今後はこのままの傾向は続かないのではないかと考えている。

大阪から30分程度の場所にあるのに関わらず、こんな田舎な場所はない。道路の整備・検討と合わせて、駅前開発を考えていかないと、人は増えないと思う。検討要素も多いことと思うが、駅前開発を頑張ってもらって、マンション整備、商店誘致を大々的にやっていくべきであると思うし、そういった要素が、人口増に繋がる大きな引き金になるだろう。

事務局

アンケートの結果として、「地域交通ネットワークの整備」の施策が、重要度が高いが満足度が低いという結果になっており、駅前広場の整備も含めた市民の意向の結果となっていると認識している。こういった結果を踏まえて、今後検討や計画への盛り込みを考えていきたい。

村瀬委員

情報発信に関して、市の公式ラインやSNSに関する選択肢があるが、このラインとSNSは市民としては異なるものであると認識している可能性がある。市民目線としては、ラインは電話番号と同じ使い方をするものというイメージが強いのではないかと。

SNSとして、Xやインスタは「不特定多数に発信」するのに強い媒体で、ラインは個人に対して発信したり、申し込み等の手続きに用いたり強い媒体。情報発信というところでは、今後力を入れていくものとしては、Xやインスタになってくるのかなと思う。また、SNSとはまた違うものと認識されている可能性もあるがYouTubeについても、不特定多数への発信に強いので、力を入れていくことが大事であると思う。

(4) 葛城市第三次総合計画及び第3期葛城市総合戦略構成案について 事務局より資料4を用いて説明

【松井委員から資料4に関して事前意見】

1点目、セーフティーネットとは、具体的にどのようなものを想定しているのか。

【事務局回答】ここで記載するセーフティーネットとは、具体的な政策を示すものでなく、今後のまちづくりの方向性として、福祉の網からこぼれ落ちる方が出ないように細かい網目で支えるという意味でのセーフティーネットとして書かせていただいた。

2点目、「高齢者・障害者が生きがいをもって」という表現がなくなった意図を教えてください。

【事務局回答】今回計画の施策目標の中にも、福祉に関する項目は設定しており、そこにはもちろん高齢者・障害のある方も含まれている。今回は、あえて特定の方を限定をせず、福祉を必要としているすべての立場の方を対象とする形とさせていただいた。

3点目、アンケート結果で「高齢者・障害者が日中活動できる場の充実」「高齢者・障害者が生活しやすいバリアフリーの推進」を求める声がある。そういった部分を推進する計画に変える予定はあるか。また、障害福祉計画には、「施設入所者の地域生活への移行」に関する目標が立てられている。入所施設を作ることも大切だが、住み慣れた地域での生活を希望する人に向けた相談やサービスの充実とバリアを無くし、移動・外出しやすく生き生きと暮らせるバリアフリーの推進について、総合計画に入れていただきたい。

【事務局回答】意見にもあった障害福祉計画や市策定のバリアフリー基本構想との整合性を図りつつ、市の最上位計画として策定を進めてきたい。

森委員

先ほどからの委員の意見にもあったが、地域の個性を活用した計画にするべきという内容については、私自身もそう思う部分がある。尺土駅前の開発も、今どうなっているのかとまさに思うところであった。

地域の活性化を進めていくために、経済活動・文化活動・産業の活発化といった部分も大事であると言われるが、やはりまちづくりの中心は「人」であると思う。この会議でもそういった意見がたくさん出て、良かった。地域住民の活動への意欲向上といったものが今後のまちづくりには重要で、AIが発達して非連続的変化・予測不可能な時代となっているこの時代でも、基礎となるものは「人」。人材育成や、リーダーとなる人材の育成とそのサポート・支援といった視点も考えていくこと大事であると思うし、外部機関との連携や助成金・補助金の活用についても合わせて検討をお願いしたい。

住民の主体性を育み、地域を良くしたいと考えてくださる人を育てていくこと。若い人がこのまちに住みたい、ここで仕事をしたいと思えるよう、世界に羽ばたいていったとしても、市に戻ってきたりするように、繋げていくことを考えていってほしい。

会長

本日議論いただいている体系案について、次回以降の会議では具体化した内容に進んでいくので、枠組みや方向性については、この場でしっかりと議論・意見もらえればと思う。

坂上委員

「誰もが尊重し合う、心豊かな社会」に関して、市の歴史をこどもたちにもっと教える・伝えることが必要なのではないかと思う。もちろん現状でも、副読本等で色々とお伝えいただいているが、そこでは「現在の葛城市」は書かれているが、「歴史」をわかりやすく教えることがさらに必要であると思う。YouTubeで廃村探訪している方が、市の正道寺村？を廃村として紹介していた。ここは、以前に水没した他地域から集団移住してきた場所で、それ以降に起こった大きな水害も免れた歴史ある場所。そういった内容も、こどもたちに教えられたら良いと思う。生涯学習というと、高齢者向けの勉強に思われることもあるが、全年齢の学びである。胎教等も含む全生教育も必要。

技能実習生として、外国人も多く暮らしている本市では、どのように共生していくかを考えて、取り上げていくことも大事であると思う。

事務局

歴史・文化に関する学びは、現行の教育大綱でも触れられている。整合を図りつつ策定していきたい。

坂上委員

学習指導要領の改訂年度でもあるので、そういった内容も踏まえて策定していってほしい。

松下委員

以前、小学生に対し、市内案内を実施したことがある。私たちは歴史の専門家ではないけれど、地元のガイドでしか知らないことはたくさんお話しできる。今は、ネットで調べられることもできる。でも、文字のデータだけではみえないところもたくさんある。そういった取り組みには、今後も協力していきたいと思う。

奥田委員

現状・課題9に、市の自慢できることとして記載するのであれば、市民と小中高生両方で出ている意見をピックアップするべき。片方にしかない項目が書かれているのは恣意的なものを感じる。

他の委員からの意見にもあった、「市の10年後を見据えたときの目指す先を示す、ピリッと光る最上位計画」を考えていけないといけないと思う。関西ウォーカーの様なインパクトある発信が出来るように。具体の取り組みは、個別計画でやっていくものであり、上位の計画である総合計画で示していくのは「何を重点にしていくのか」「奈良の中で・日本の中でどう光っていくのか」であると思う。前市長・現市長で進めてきた政策（相撲葛城・手厚い子育て）も含め、葛城市は注目されてきた部分があると思う。テンプレではなく、とんがるものをどこかに入れて行ってほしいと思う。

事務局

テンプレという意見については、確かに今の形としては、住民からの意見に対応してアンケートに関連して計画を作っていくというところで、網羅的な計画の形になっている。今後、行政として進めていくものや今後をどうしていくかについて、もう少し踏み込んだわかりやすいものを創っていかないといけないという意見だと理解している。今後、検討を進めていきたい。

会長

次回会議までに、事務局の方で検討いただきたい。会長職の私としても、しっかりと確認させていただく。体系案の各項目について、理念からのトップダウン的に、重点となる部分を考えてみて欲しい。そこに関連する、KGIが設定できれば、達成するためのKPIや重要な施策を考えていくことが出来ると思う。

溝畑委員

理念を考えていくことが必要になってくると思う。市がオンリーワンであることを考えて、住民と認識を1つにするための重点プロジェクトを決めていくこと。「なにやりたいのか」を市として決めて、団栗の背比べをしていないで、10年で勝負かけていくことを示してほしい。

布施委員

1つ、人口だけはどうかして欲しい。ここは願い。

また、保育園・幼稚園の職員は募集しても集まりにくい現状がある。国の補助として、家賃補助の制度があるが、条件が厳しく対象となることが難しい。可能であれば市の方で、補

助をお願いできればと思う。常勤（正職員）の家賃補助をしてもらえると職員が集まりやすい上に、転居してもらえると住民税の税収も増える。當麻小学校区・新庄小学校区に若い人が住んだらこどもも増えると思う。ぜひ検討して欲しい。

高野街道に以前は道標があったが無くなってしまっている。市の歴史も踏まえたこういった要素を大事に残していけると、アピールに使えたり、小学生も登下校に見つけて楽しんだりできる。松尾芭蕉も通ったこの道をこどもたちが学ぶきっかけにもなると思う。

(5) 市政フォーラム資料

事務局より資料5を用いて説明

村瀬委員

1万人のモニター調査の結果がここにも記載されているが、市外の方が求めるものと、市民が求めるものが似ており、興味深い結果となっている。しかし、日頃の買い物・交通が不便という内容だけでは、市民が本当に何を求めているのか・何に困っているのかを知ることが難しい。距離に困っているのか・品ぞろえに困っているのか、時間に困っているのか。求めているものは人それぞれ違うので、具体化が可能であれば、市民に聞いてもらえるといい。

会長

市政フォーラムで、そういった内容を聞くのも1案であると思う。ぜひ検討して

(5) その他

事務局

次回審議会は、春ころを予定していたが、もう少し早く開催させてもらえたらと思う。時期については、改めてご連絡させていただく。

奥田委員

今回のこの資料をもとに、1月から市政フォーラムは実施するという認識で間違いないか。

事務局

市政フォーラムについては、現時点では2/1から実施予定としている。今回の資料をたたき案として意見を伺い、困りごとやニーズを吸い上げ、計画に盛り込んでいきたいと思う。

配布資料

葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会次第

第2回葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会座席図

資料1 葛城市第二次総合計画及び第2期葛城市総合戦略 指標評価について

資料1-1 第2期葛城市総合計画達成度見込み・分析報告書

資料1-2 第2期葛城市総合戦略重要業績評価指標達成度見込み・分析報告書

資料2 葛城市人口推計について

資料3 アンケート調査結果報告書

資料4 葛城市次期総合計画・総合戦略・人口ビジョンの方向性について

資料5 市政フォーラム資料案

以上